

18	豊田	幸海小学校	ヘイダ ヨリコ 氏名 平田 よりこ
整理番号	12	分科会名	自治的諸活動と生活指導（小学校）

研究題目

わくファミ活動を通してはぐくむ、なりたい自分に向けて努力する児童の育成
 — 6年 特別活動「人とのつながりを大切にし、
 わくファミ班の成長を図ろう」の実践を通して —

1 はじめに

今日の社会では、価値観や人間関係の多様化が進み、他者と協働して課題を解決したり、思いを共有しながら集団を形成したりする力が求められている。こうした力は、将来の社会を担う子どもたちにとって重要であり、学校においては特別活動を通してはぐくむことが期待されている。特に小学校6年生は、義務教育前期の最上級生として異年齢との関わりを通して役割を果たし、自らの成長を実感する経験を積むことが求められている。

本学級の学級目標は「SIRIUS」である。この目標には、夜空で最も明るく輝くシリウスのように、一人ひとりが学校生活の様々な場面で輝き、自分らしく成長してほしいという願いが込められている。本学級の児童は、縦割り班活動「わくわくファミリー班活動」（以後「わくファミ活動」）に前向きに取り組む姿勢が見られる一方、「どう関わればよいのか分からない」「下級生への声掛けに戸惑う」といった迷いを抱える児童もいる。また、活動を楽しむ姿は見られるものの、自分なりの関わり方を考えながら主体的に行動する姿には個人差が見られた。

そこで、本実践では、運動会種目であるわくファミ班対抗玉入れに向けた活動を通して、自分たちの班の課題を見付け、仲間と協働しながら整理・分析し、改善に向けて取り組む経験を積み重ねることとした。その過程で、下級生との関わりや仲間との対話を通して自分のよさや成長に気付き、自己有用感や主体性を高めながら、次の活動への目標をもち、自分なりの「なりたい自分」を考えながら取り組む児童の育成をめざした。

2 研究内容

（1）めざす児童像

めざす児童像を次のように設定した。

- ①自分事として課題を見だし、主体的に行動する児童
- ②自己有用感をもち、周囲と関わりながら、自分のよさや成長に気付き、自分なりの「なりたい自分」を意識して取り組む児童

（2）研究仮説

めざす児童像に迫るために、次に示す仮説を設定した。

- 仮説1** 課題や困りごとを自分事として見だし、問題を共有しながら、よりよい活動にしようという目的意識をもって行動することで、主体性やリーダー性が育ち、自ら考えて行動する姿につながるであろう。

仮説 2 振り返りを通して、仲間の頑張りや自分の行動を互いに伝え合い、認められる経験を積み重ねることで、自己有用感や仲間意識が育ち、自分の成長を実感しながら、次の活動への目標をもって行動できるであろう。

(3) 研究の手立て

仮説検証のために、次のことを手立てとする。

仮説 1 に対する手立て

手立て①…わくファミ会議の場の設定

わくファミ活動後、自分や班の活動を振り返る場を設定する。班の友達のよさを伝え合ったり、活動の様子を動画で確認したりすることで、自分の行動を客観的に見直せるようにする。さらに、振り返りから見えてきた課題や困りごとを、他者と協働しながら整理・分析するわくファミ会議（事前会議）を行う。（資料①）各班の課題を学級全体で共有し、解決方法を考えることで、自分事として捉え、よりよい活動につなげられるようにする。

仮説 2 に対する手立て

手立て②…活動後に行う口頭での振り返りタイムの設定

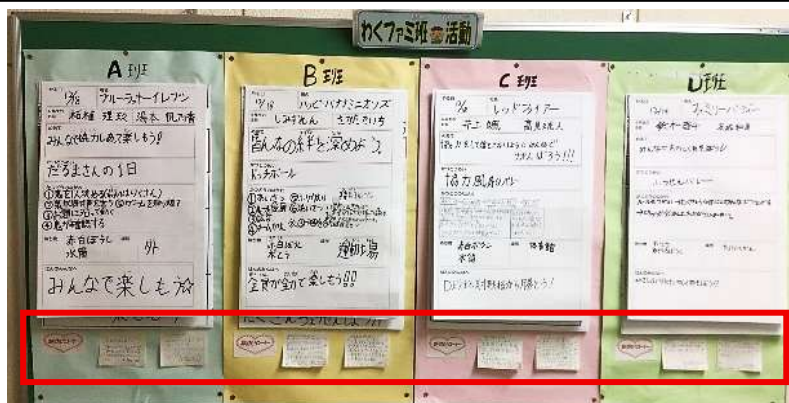
わくファミ活動終了後、班ごとに振り返りタイムを設定する。下級生や担当教師から感想を受け取ることで、自己有用感を高め、次の活動への意欲や改善点を見いだせるようにする。

手立て③…掲示板にありがとうコーナーの設置

活動を通して、班全体や友達のよかったところを振り返り、手紙に書いて掲示する。（資料②）掲示を通して互いの思いや感謝を共有し、自分の頑張りや成長に気付くことができるようにする。



資料① わくファミ会議の様子



資料② わくファミ掲示板に「ありがとうコーナー」の設置

(4) 抽出児童について

次に示す A 児を抽出児童とし、研究の手立ての有効性を確認する。

実 態	A 児は、明るく、クラスメイトや下級生と仲良く関わることができる児童であり、指示されたことに取り組んだり、自分の考えを伝えたりすることができる。一方で、自分に自信がなく、「失敗したくない」という思いから積極的に行動することに苦手意識がある。また、自分の考えを生かしながら、自信をもって主体的に行動することに課題が見られる。
-----	---

教師の 願い	・わくファミ会議で互いの頑張りや考えを認め合う活動を通して、自分の考えや行動に自信をもち、なりたい自分に向けて主体的に行動してほしい。 ・下級生や教員からの肯定的な言葉を受け取る機会を設定し、自分の行動に自信をもち、自己有用感を高めながら生活してほしい。
-----------	--

3 主な実践内容

月	活動内容	縦割学校行事	教師の支援
4	・理想の6年生とは 級訓決め ・わくファミ班の班長副班長選出 ・わくファミ会議（活動内容の確認） ・行事の振り返り・改善会議	・春のふるさと探し ・1年生歓迎会	・卒業時の自分をイメージできるよう、理想の6年生や学級目標「SIRIUS」について考える時間を確保する。
5 6 7	・次回の班遊びの企画 ・活動の準備 ・わくファミ会議（振り返り・改善会議）	・わくファミミーティング（休み時間：4～6年連絡会議） ・わくファミ活動①②③（休み時間：室内遊び）	・活動の確認や成長を実感できるよう、「SIRIUS 掲示板」を更新する。また、振り返りを通して、自分のよさや成長に気付く時間を確保する。
9 10 11	・班対抗玉入れプロジェクト開始（運動会「班対抗玉入れ」の全校提案・運動会テーマ決定） ・班練習の計画 ・わくファミ会議（練習の振り返り・改善会議） ・運動会本番最終確認 ・運動会の振り返り	・わくファミ活動④⑤⑥⑦⑧（休み時間：玉入れ練習） ・地域共催運動会 ・わくファミさつまいも掘り	・児童同士が協力して情報を整理・分析できるよう、考える時間や話し合う時間を十分確保する。また、課題を自分事として捉え、仲間と協働しながら改善できるよう、思考ツールを活用する。
12 1	・次回の班遊びの企画 ・活動の準備 ・わくファミ会議（振り返り・改善会議）	・縄跳び焼き芋大会 ・わくファミ活動⑨⑩⑪（休み時間：室内・外遊び）	・6年生としての成長や活動の成果を振り返り、自分の成長や周囲との関わりを振り返る時間を確保する。
2 3	・5年生への引継ぎ説明会 ・わくファミ会議（1年間の振り返り）	・卒業生を送る会	・他者からの評価や感謝を受け取りながら、1年間の活動を振り返る時間を設ける。また、自分の成長や仲間との関わりを振り返り、今後の生活に生かせるよう支援する。

4 実践と考察

（1）わくファミ会議の場の設定（手立て1）

めあてを設定し、学級全体で取り組む際、児童に当事者意識をもたせるため、PDCA サイクル（P：Plan D：Do C：Check A：Action）で取り組んだ。

P：現在のわくファミ班にふさわしいめあてや活動内容を考え、計画書を作成する。

D：わくファミ活動を行う。

C：活動を振り返り、班や学級で共有する。ありがとうカードを作成する。

A：課題解決に向け、6年生としてできる工夫を考える。

※このサイクルを繰り返し行う。

7月のわくファミ活動終了後、9月以降の活動内容を検討する中で、「遊びだけでなく、班全体で協力できる活動がよい」という意見が出た。その中でA児が「わくファミ対抗で玉入れを行う」ことを提案し、運動会に向けた活動として取り組むことになった。

（資料③）

活動開始後は班ごとに振り返りを行ったが、当初は「声掛けができた」「分かりやすく

説明することができた」など、自分たちの行動を表面的に振り返る記述が多く見られた。そこで、活動中の様子を動画で確認し、自分たちの行動を客観的に見直す場を設定した。(資料④) 動画視聴後には、「低学年の子に目線を合わせて話している」「話は聞いているが伝わっていない」など、活動のよさや課題に気付く姿が見られた。

その後、見えてきた課題を班や学級全体で共有し、他者と協働しながら整理・分析した。(資料⑤) さらに、思考ツール「Yチャート」を活用し、課題が生じる場面や改善方法を可視化しながら解決策を考えた。(資料⑥)

各班からは、「注意しても伝わりにくい」「話を聞いてもらえない」などの課題が挙がり、「目を見て伝える」「近くで声を掛ける」「座る位置を工夫する」などの改善案が出された。その中で A 児は、「他の班が見えない位置に並ぶ」「座る場所を工夫する」と提案し、班で相談しながら次の活動に生かしていた。

このことから、わくファミ会議を通して、児童は課題を見だし、自分事として捉えながら、仲間と協働して改善に向けて行動する姿が見られた。また、活動を振り返り、改善を積み重ねる経験が、主体的に課題解決に取り組もうとする姿につながったと考える。

児童 B：わくファミ遊びをやってみて、班で楽しむだけでなく、協力できるともっと班の仲がよくなりそうだね。

児童 C：班で協力してやるなら、班対抗での対決だと盛り上がりそうだね。

児童 B：対決ならあまり力の差が出なくて、ルールが簡単だと低学年でも楽しめるね。

児童 D：ドッチボールで高学年が手加減してやると低学年は全力でできると思うよ。

児童 C：でもそれだと、みんなが楽しめないね。

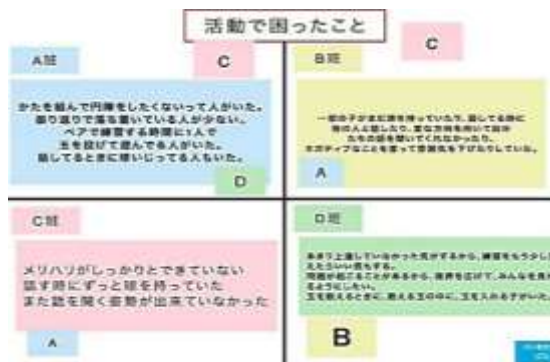
児童 A：玉入れなら簡単だし、勝負もできるからいいと思う。

児童 B：たしかに。それなら運動会でやってみたい。

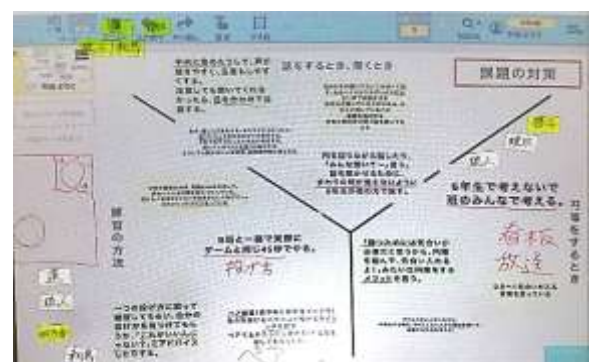
資料③ わくファミ会議の児童同士の会話



資料④ 活動を動画で確認する様子



資料⑤ 困りごとを共有し、当てはまることに印をつける



資料⑥ 「Yチャート」を使って、出てきた課題を解決する方法を考える

(2) 活動後に行う口頭での振り返りタイムの設定(手立て2)

毎回活動の最後に班ごとに集まり、下級生の率直な感想や担当教師からの助言、企画・運営への労いの言葉を受け取る振り返りの時間を設定した。

運動会で行う班対抗玉入れに向けた練習では、下級生から「次は勝ちたいです」「もっと玉を入れられるようにしたいです」など、活動に前向きな感想が聞かれた。また、「6年生の〇〇君と一緒に練習してたくさん玉が入ってよかった」「今日の練習方法、分かりやすくよかった」など、6年生の関わりを認める言葉も多く見られた。

活動後に教室へ戻ると、6年児童からは、「前回より〇〇ちゃんが上手になっていて嬉しかった」「下級生への声掛けを先生に褒められて嬉しかった。」など、自分たちの関わりを肯定的に振り返る発言が見られた。

一方で、ある班ではゲームで連続して最下位となり、下級生からの振り返りの言葉が少

なくなる場面も見られた。その班の6年生児童は、「実力差があり勝てません」と消極的な思いをもっていた。しかし、練習方法や下級生との関わり方を見直し、勝つことができた際には、下級生から多くの前向きな言葉が寄せられ、「6年生が助けなくてもみんなが振り返りを言ってくれた。頑張ったかいがあった」と話していた。(資料⑦)

このように、下級生や教師から認められる経験を積み重ねることで、児童は自分のよさや成長を実感し、次の活動に前向きに取り組もうとする姿が見られた。また、自分たちの働きかけが仲間の成長につながるという経験が自己有用感や成長実感につながったと考える。

(3) 掲示板にありがとうコーナーの設置(手立て3)

活動を通して、班全体のよかった点や下級生との関わり方について振り返る姿が見られた。6年生から下級生へ、振り返りの場でよかった点を口頭で伝えていたものの、時間の制約もあり、十分に思いを届けられない場面も見られた。そこで、わくファミ掲示板に「ありがとうコーナー」を設置し、6年生から下級生へ感謝のメッセージを掲示する取組を行った。掲示板には、「片づけを手伝ってくれてありがとう」「たくさん声を出して盛り上げてくれてありがとう」などの言葉を掲示した。すると、それを見た4年生から6年生へ手紙が寄せられた。(資料⑧) そこには、「いつも楽しい遊びを考えてくれてありがとう」「ぼくも6年生になったら見習って頑張ります」など、6年生の取組を肯定的に受け止める言葉が書かれていた。

また、運動会前の最後の練習後には、下級生から目標や感謝の気持ちを書いた手紙を受け取った。(資料⑨) 手紙を読んだ6年生からは、「今まで頑張ってよかった」「本番も気合を入れて頑張ろう」といった声が聞かれた。さらに、A児から「返事を書きたい」という提案があり、班ごとに返信メッセージと当日の意気込みを記入し、本番まで玄関へ掲示した。また教室には活動内容や写真、下級生からの言葉を掲示した「SIRIUS 掲示板」を設置し、自分たちの取組や成長を振り返ることができるようにした。(資料⑩)

このように、下級生や教師から認められる経験を積み重ねることで、児童は自己有用感を持ち、自分のよさや成長に気付き、次の活動へ前向きに取り組もうとする姿が見られた。



資料⑦ 下級生の振り返りを聞く6年生児童(左)



資料⑧ 4年生から手紙をもらう様子



資料⑨ 班の下級生からもらった手紙



資料⑩ 『SIRIUS 掲示板』をみる児童

